

おはようございます。

♪花かをる霞城のほとり・・・、校歌の冒頭にもあるように、過ごしやすい季節を迎えました。今日は生徒会長の挨拶やクラス委員の任命式がありますので、校則とその周辺について考えてみたいと思います。

1年生は初めて聞くかもしれませんが、本校は来年創立100周年を迎えるのにあわせ、制服を一新します。約1年かけて検討を進めてきたのですが、ようやく完成し、現在は動画の撮影に入っています。その動画は、6月3日に予定しているオンラインの全校集会の時に、中学生よりも先に、まずは皆さんに見ていただきたいと考えています。

以前、生徒総会でも要望として挙がった「パーカー」については、アンダーアーマーをお願いして作っていただけることになり、それは今の制服を着用している皆さんも、この秋くらいから購入できることとなります。そうはいつても、3年生は残り少ないので、購入する人は少ないとは思いますが。

いずれにしても、来年制服が新しくなるので、それに向けて校則の見直しも必要になります。全国的には、多様性を認める流れにあるわけですが、「秩序が保たれる中での多様性」ということで、これは相当厄介です。

2月に実施した学校評価アンケートにおいても、実は校則を厳しく適用してほしいという声が多く、自由にという意見はマイノリティです。しかし、少数派だからと言って、その声を無視していいわけでもありません。成熟した社会ほど、他者にも寛容で、多様性を尊重します。逆に自分以外の主張を受け入れない社会は未成熟と言えます。今のアメリカはその典型でしょう。

成熟という言葉を使い換えれば、「居心地がいい」とか「みんなが笑顔でいられる」とかになるのでしょうか。今年の生徒会のスローガンは「咲う」と書いて「わらう」と読ませています、まさにそのイメージです。

全国的に校則は今、少しずつ緩やかになりつつあるのですが、逆にこれまでなかった規制が新たに加えられているものもあります。それは、自転車に乗るときのヘルメット着用です。東京では昨年度から全ての都立高校の校則に入りましたし、福岡や大分などでは今年からそうになりました。

ヘルメット着用は2年前から努力義務となったわけですが、本県の着用率は全国平均を下回っており、昨年7月の調査で本県は10%。全国平均は17%ですから、非常に低いと言えます。

本県で2020年～24年の5年間に自転車で死傷事故に遭ったのは1406人で、11人が死亡しました。そのうち10人はヘルメットを着用していませんでした。

着用率の全国トップは愛媛県で、約7割が大人も子供もヘルメットを着用しています。愛媛7割と山形1割、あまりの差に愕然としますが、愛媛県の高校では、10年も前からヘルメット着用が校則で義務化され、しかも無償でヘルメットが提供されているという背景があります。

何でも「始まり」には理由があるものです。それを報じた新聞記事を読んでみます。

2014年12月、県立伊予農業高校1年だった大地君は、信号のない横断歩道を渡っていてトラックにはねられた。約20メートル飛ばされ、頭を強打して亡くなった。期末試験を終えて自転車で帰宅中だった。安全確認を怠ったとして、運転手は執行猶予付きの有罪判決を受けた。

事故の翌日は大地君の母の誕生日だった。葬儀の数日後、部屋のクローゼットから折り紙の花束が見つかった。ピンク、緑、黄……。鮮やかな花びらの部分は、大地君が朝早く学校に来て、折り紙を折っていたと、友人から聞いた。茎の部分も手作りだった。

「折り紙博士」。幼稚園の頃そう呼ばれたほど、大地君は幼い頃から手先が器用だった。「誕生日はお花がいいな」とリクエストしていた母へのサプライズ。母は胸に抱きしめて泣いた。

一度失われた命は戻りません。本校で校則にするかどうかはまだ検討が必要ですが、校則かどうかに関わらず自分の命は自分で守る、これに尽きます。つい先日茨城県で痛ましい事故が起きています。

15日午後4時前、取手市中田の交差点で、軽乗用車と自転車が出会い頭に衝突する事故がありました。警察によりますと、自転車に乗っていた高校1年生の女子生徒が頭を強く打ち、病院に運ばれましたが、その後、死亡が確認されました。下校中だったとみられ、現場は信号機がなく、周囲に田んぼが広がる見通しのよい交差点で、警察は事故の原因を調べています。

警察庁によると、4月から6月にかけては小・中・高校生ともに自転車の事故による死者・重傷者数が全国的に増える傾向で、過去5年間では、高校生1～2年生の16歳が最多となっています。

自分がいくら注意しても、ドライバーの不注意で事故は起きます。「備えあれば憂いなし」というように、事故や災害に備える、準備することは大切です。まだヘルメットを付けていない人は、必ず着用してください。

最後になりますが、1,135名という県内一の生徒会がスタートしました。その一員であるという自覚をもって、あいさつと笑顔の溢れる楽しい学校にしましょう。